

横田英史の 書籍紹介コーナー



アマゾノミクス ～データ・サイエンティストはこう考える～

アンドレアス・ワイガンド、土方奈美・訳
文藝春秋 1944円(税込)

米Amazonの元チーフ・サイエンティストが、同社やFacebook、Googleなどの米国データ企業が行っているデータ利活用の現状と今後、最新の研究動向、データ利活用の在るべき姿を論じた書。IoTや自動運転といった旬の話題にも触れる。タイムリーでお薦めの1冊だ。

21世紀における最大の資源というべきデータの利活用についての考察は示唆に富む。例えば出会い系のサイトにおけるデータの価値はユーザーのプロフィールよりもクリックの痕跡にある、ユーザーのプロファイリングよりもソーシャルグラフの方が融資や保険の契約には有用といった分析結果を取り上げる。

筆者は、個人の意思決定をデータ企業に委ねてはならないと警鐘を鳴らす。データ企業に振り回されるのではなく、個人の利益になるように自らが主体性をもってデータに関わるべきだと語る。

未来の年表 ～人口減少日本でこれから起ること～

河合 雅司 講談社 821円(税込)

2017年から2050年、さらに2065年以降の日本社会の変化を、国勢調査や国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口」などに基づいて論じた書。「2018年に国立大学が倒産の危機へ」「2019年に IT技術者が不足し始め、

技術大国の地位揺らぐ」「2025年について東京都も人口減少へ」といった具合だ。日本社会のおかれた危機的状況がよく分かる筋立てになっている。製品企画のヒントにも使えるだろう。

筆者は、人口問題について正しい知識を持たない国や地方が頓珍漢な対策を打ち出していると危機感を募らせる。人口の激減を見据えたコンパクトで効率的な国造りに向け、あえて「不都合な真実」を明らかにしたと語る。筆者が最大の危機と位置づけるのが、高齢者が3935万人超とピークを迎える2042年。就職氷河期の世代が老い、独居高齢者が大量に生まれる時期である。

ライト兄弟 ～イノベーション・マインドの力～

デヴィッド・マカルー、秋山勝・訳
草思社 2376円(税込)

誰でも知っている動力飛行機の発明者ライト兄弟を、米国議会図書館所蔵の私的文書、手紙、技術資料などにもとづいて詳細に追った評伝。人がらや兄弟を育んだ故郷、動力飛行成功後の歩み、世界“初”的有人飛行や特許、飛行機の事業化をめぐる争いなど、知られざるエピソードを取り上げており読み応えがある。ライト兄弟を、イノベータとしていま一度勉強するのも悪くない。

当時権威とみなされていた計算や係数表が推測に過ぎず信頼できないことが判明するなど、有人飛行が成功するまでの過程は困難の連続だ。それを創

意と工夫によって乗り切る様子は実際にドラマチックである。「世界史上、これほど科学的な手法と不屈の闘志をもって問題と向かい合った人間はかつて存在しなかった」とは英国王立航空協会が兄弟を評した言葉だ。

ジョブ理論 ～イノベーションを予測可能にする消費のメカニズム～

クレイトン・M・クリステンセン、タディ・ホール、カレン・ディロン、デイビッド・S・ダンカン、依田光江・訳
ハーパーコリンズ・ジャパン 2160円(税込)

「イノベーションのジレンマ」の著者クレイトン・クリステンセンが説くイノベーションを生む思考法。顧客が「商品Aを選択して購入する」ということは、「片づけるべき仕事(ジョブ)のためにAを雇用(ハイア)する」ことだというのが著者の考えだ。ジョブ理論によってイノベーションは運任せでなくなるという。

「ビッグデータの傲慢」といった警句に満ちているのも本書の特徴だ。顧客データを多く集め、市場分析を行ってもイノベーションは生まれない。数値化できない因果関係やコンテキストにこそ成功の鍵がある。興味深いのは受動的データと能動的データという視点。能動的データは目立つし定量化し易い(スプレッドシートに落としやすい)ので、企画担当者やマネージャーは飛びつきがち。だが顧客の行動の底流を明らかにする受動的データこそ、動きは小さいが有用だとする。

横田 英史 (yokota@nikkeibp.co.jp)

1956年大阪生まれ。1980年京都大学工学部電気工学科卒。1982年京都大学工学研究科修了。

川崎重工業技術開発本部でのエンジニア経験を経て、1986年日経マグロウヒル(現日経BP社)に入社。

日経エレクトロニクス記者、同副編集長、BizIT(現ITPro)編集長を経て、2001年11月日経コンピュータ編集長に就任。2003年3月発行人を兼務。

2004年11月、日経バイト発行人兼編集長。その後、日経BP社執行役員を経て、2013年1月、日経BPコンサルティング取締役、

2016年日経BPソリューションズ代表取締役に就任。

記者時代の専門分野は、コンピュータ・アーキテクチャ、コンピュータ・ハードウェア、OS、ハードディスク装置、組み込み制御、知的財産権、環境問題など。

*本書評の内容は横田個人の意見であり、所属する企業の見解とは関係がありません。